

**製品名: Sp1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18146**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	85kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SP1
別名	SP1; TSFP1; Transcription factor Sp1
遺伝子 ID	6667.0
SwissProt ID	P08047
免疫原	抗血清はヒト SP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 706-755

**背景**

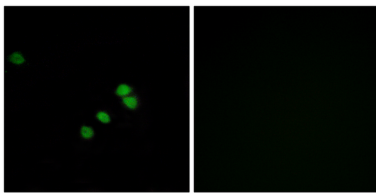
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、多くのプロモーターの GC リッチモチーフに結合するジンクフィンガー転写因子です。コードされるタンパク質は、細胞分化、細胞増殖、アポトーシス、免疫応答、DNA 損傷への応答、クロマチンリモデリングな

ど、多くの細胞プロセスに関与しています。リン酸化、アセチル化、グリコシル化、タンパク質分解プロセッシングなどの翻訳後修飾は、活性化因子または抑制因子となり得るこのタンパク質の活性に大きく影響します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2014年11月]機能:GCボックスプロモーターエレメントに結合し、機能認識部位を含む遺伝子からの mRNA 合成を選択的に活性化します。セロトニン受容体プロモーターの G/C リッチモチーフと相互作用することができます。、PTM:O-グリコシル化; N-アセチルグルコサミン側鎖を含む。、類似性: Sp1 C2H2 型ジンクフィンガータンパク質ファミリーに属する。、類似性: 3つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。、サブユニット: ATF7IP、ATF7IP2、POGZ、HCFC1、AATF、PHC2 と相互作用する。水痘帯状疱疹ウイルス IE62 タンパク質および HIV-1 Vpr と相互作用する。SV40 VP2/3 タンパク質と相互作用する。SV40 主要カプシドタンパク質 VP1 と相互作用し、この相互作用により、DNA 結合において2つのタンパク質が協同的に働く。、

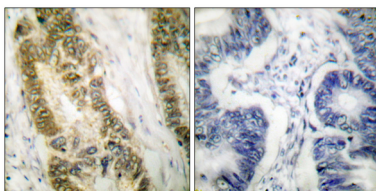
## 研究分野

TGF-ベータ;ハンチントン病;

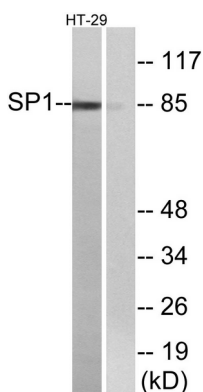
## 画像データ



SP1 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。

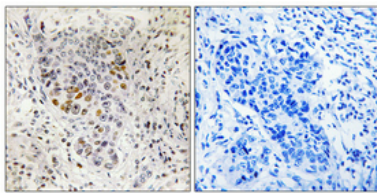
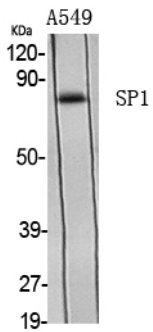


SP1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



SP1 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。

Sp1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。